

第 6 回原子力委員会定例会議要録（案）

1. 日 時 1998 年 1 月 27 日（火）10：30～10：50
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、造藤委員、木元委員
通商産業省資源エネルギー庁原子力発電安全企画審査課
小嶋統括安全審査官
安藤統括安全審査官
（事務局等）伊藤原子力調査室長
池本専門委員
通商産業省資源エネルギー庁
原子力発電安全企画審査課 結城、早川、小山
原子力調査室 杉本、新井、仙石
4. 議 題
 - （1）関西電力株式会社大飯発電所の原子炉の設置変更（1 号、2 号、3 号及び 4 号原子炉施設の変更）について（諮問）
 - （2）その他
5. 配布資料
 - 資料 1-1 関西電力株式会社大飯発電所の原子炉の設置変更（1 号、2 号、3 号及び 4 号原子炉施設の変更）について（諮問）
 - 資料 1-2 関西電力株式会社大飯発電所原子炉設置変更許可申請（1 号、2 号、3 号及び 4 号原子炉施設の変更）の概要について
 - 資料 2 第 5 回原子力委員会臨時会議要録（案）
6. 審議事項
 - （1）関西電力株式会社大飯発電所の原子炉の設置変更（1 号、2 号、3 号及び 4 号原子炉施設の変更）について（諮問）
平成 10 年 1 月 13 日付け平成 09・08・01 資第 12 号をもって通商産業大臣から諮問を受けた標記の件について、通商産業省より資料 1-1 及び資料 1-2 に基づき説明がなされた。これに対し、委員より
 - ①今回増設する使用済燃料貯蔵ピットのスペースは、原子炉施設の当初からピットを増設することをあらかじめ想定していたものか
 - ②既設のピットと増設するピットは同じものが入るのか
 等の質問があり、通商産業省より、
（①に対して）当初から想定して余裕をとって建設していたものである
（②に対して）既設ピットには全炉心燃料の 500％分、増設するピットには 600％分の使用済燃料が入るが、増設ピットでは小さなスペースにより多くの使用済燃料を収納できるよう、ラックのステンレス鋼にボロンを入れるなどの技術改良を行っている
等の説明があり、また、第 2 回定例会議の「九州電力株式会社川内原子力発電所の原子炉の設置変更（1 号及び 2 号原子炉施設の変更）について（諮問）」において委員より質問があった件につき、
・米国ではステンレス鋼の外側に吸収剤としてボロンを貼り付ける方法で 1 件の実績がある。独国ではリラッキングをしている 11 件のうち、8 件でステンレス鋼にボロンを加える方法が 1987 年より採用されている
・我が国においてもボロン入りステンレス鋼については柏崎刈羽発電所において、7、8 年前から採用している実績があり、最近では、建設当初からこの方法を採用するか、あるいはこの方法でリラッキングが行われている

等の説明があった。最後に委員より、

- ・本件については地元の関心も高いので、国が安全性について十分審査していることを発信していくことが大切
- ・（リラッキングによるピットの増強について）我が国が初めて採用する印象を持っている人も多いので、海外や国内において既に実績があることを説明していくことが重要

等の意見があり、標記の件について引き続き審議することとした。

注）本件は、使用済燃料の貯蔵体数の増加を図るため、3号炉及び4号炉の使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力を変更するとともに、変更後における3号炉の使用済燃料貯蔵設備並びに4号炉の使用済燃料貯蔵設備を1号炉及び2号炉と共用化するのである。

（2）議事録の確認

事務局作成の資料2第5回原子力委員会臨時会議議事録（案）が了承された。

なお、事務局より、次回は1月30日（金）に臨時会議を10：30から開催する方向で調整したい旨発言があった。